

【GW】 Question Formulation Technique (QFT) による「問い」のデザイン

1. 目的：課題研究においてもっとも重要な自分だけの「問い」を見つけるために、効果的な「問い」をつくるコツを体得する。

2. 「問い」をデザインする方法 … まずチーム（A-1～D-5）内で司会・書記・発表者を決める。

(1) このワークの「4つのルール」を理解する。

ルール1：できるだけたくさん「問い」を出す。

ルール2：「問い」を出す段階では、それについて話し合ったり評価したり答えを言ったりしない。

ルール3：「問い」は必ず疑問形で出す（肯定形になっている場合は疑問形に直す）。

ルール4：「問い」をグループで紹介し書き出すときは、表現を省略したり変えたりせず、正確に行う。

(2) 「4つのルール」のなかで一番難しそうなのはどれか議論する。

(3) 「問い」の焦点（Qフォーカス：「問い」を考えるための題材）が提示される。

(4) 個人でブレインストーミング（Qストーミング：できるだけたくさん「問い」を出す）。**ルール1**

「問い」の焦点に対し、できるだけたくさん「問い」を書く（右側のリストに）。

「焦点」に使われている言葉から連想した言葉・概念についての「問い」でも良い。

(5) 個人で考えた「問い」をチームで紹介し合う（話し合いはしない）。**ルール2**

書いた「問い」をチーム内で紹介し合う。

紹介された「問い」のうち、肯定形になっているものがあれば疑問形に直しておく。**ルール3**

(6) 「問い」を転換する（閉じた「問い」／開いた「問い」）。

閉じた「問い」：「はい」か「いいえ」、もしくは限られた「(固有) 名詞」を答えとする「問い」

開いた「問い」：「はい」か「いいえ」、もしくは「単語」で答えることができない「問い」

紹介された「問い」を閉じた「問い」と開いた「問い」に分類し、別紙ワークシート（A3サイズ）の「転換前」にそれぞれ記入する（書記）。**ルール4**「転換前」にすべての「問い」を書き終わったら、『閉じた「問い」』は『開いた「問い」』へ、『開いた「問い」』は『閉じた「問い」』へ転換して「転換後」にそれぞれ書く。

(7) (6) でつくった「問い」も含め、チームで「問い」に順位づけをする。

出てきた「問い」のなかから、「重要だ」「考えたり調べたりする価値がある」「現実的に調べることが可能である」「考えたり調べたりすることで、何か新しいアイデア（提言）を創り出せそうな可能性を感じる」ものベスト3を選ぶ。

(8) シェアリング

チームの発表者は、チームの「問いのベスト3」を他のチームに向けて発表し、アイデアを共有する。

①	轉換前	轉換後
閉じた問い		
開いた問い		

最後に提出してください！

②	転換前	転換後
閉じた問い		
開いた問い		

最後に提出してください！